

大磯の二十六夜待

飯 田 善 雄¹⁾

二十六夜さんは、町内によってはあり～海岸沿いの南下町・北下町・西小磯東・西小磯西・国府本郷・国府新宿～講があったかはつきりしないが、念仏仲間の年寄りの女衆が9月の二十六夜さんの日に、月の出を待って念仏を申しながら、阿弥陀さんが舟に乗って上ってくるのを拝んだという。

現在、二十六夜さんは、大正7・8年頃、関東大震災後、20年位前、10年位前、3年前等に止め行なわれていない。国府本郷の中丸地区では、9月8日のテントウ念仏の日に、わざとだが念仏だけは唱えているという。なお、大磯町では、今回の調査で月待供養塔の所在を確認することができなかった。

以下、老人会の席上、あるいは個人的に聞き取りしたことを述べる。

(南下町)

柴山シツさん(明治41年生)によると、南下町で3年前まで小人数で二十六夜さんの念仏を女衆だけが参加しやっていた。昔は浜でやっていたが、その後堤防の降り口の角に外灯があり、ここにムシロを敷いてやった。また、念仏をやる年寄りの女衆も15、6人いたが、だんだん減り、3人になってしまったので止めたという。

毎年9月の二十六夜さんの夜、お茶・お菓子を持って行って上げ、念仏を申したり、茶菓子を食べながら世間話に花をさかせ、月の出を待ち、剣の形で上ってくる月を拝んだ。

(北下町)

榎本キクさん(大正1年生)によると、二十六夜さんの夜、年寄りが海岸で、舟の形をした月が上がるのを待ってお念仏を申した。大抵、夜あかしなので食うものを持って行っ

た。男衆も参加し、花札などやっていたという。榎本さんの子どもの頃(大正7・8年)はあったという。

(西小磯東)

鈴木ハナさん(明治35年生)によると、西小磯東では、10年位前まで念仏講に入っている年寄りの女衆が20人位、大日堂(真言宗の寺、今は西小磯東老人憩の家)の下の方でやっていたという。

毎年違うが、9月の二十六夜さんの日、夜11時頃、アズキ飯・ニシメ(昔はおづき、その後茶碗に入れた)・茶菓子・お茶・水を持って行き、ミシロの上に紙を敷いて上げ、チャンチャン念仏を申したり、上げたものを食べたりしながら月の出を待った。2時頃、月が舟のかっこうででてくる。そのお舟に阿弥陀さんが乗ってでる。これをナムアマダブツ、ナムアマダブツとお念仏を唱えながら拝む。

「キミョウチョウライ六夜さん、二十六夜の御来光、拝むとすれば雲がくれ、雲には邪見はないけれど、この身が邪見で拝まれねえ、心あらため身を清め、また来る六夜を拝みます」という歌があるように、実際は曇っていたりして、なかなか拝めなかったという。雨の日は大日堂で念仏を唱えた。また、月が見えないので、滄浪閣の下あたりまで拝みながら行くこともあった。

(西小磯西)

仲手川定三さん(明治36年生)によると、大正7・8年頃まであったという。二十六夜さんの日に、念仏講の年寄りの女衆が浜の土手へムシロを敷いて、お供えものをして、念仏をやって月の出るのを待っていた。ニギリを持って行った。子ども達も見えていたので、寝てはいけないと言われたという。細い月に阿弥陀さんが光って見える。細い月の先に光

るものがある。普通は見られないが、拝めると幸せがくると言われていたという。

(国府本郷)

露木マサさん(明治37年生)の話では、中丸では20年位前まで二十六夜さんの念仏があったという。現在、9月8日のテントウ念仏の日に、日の出・日の入り・二十六夜の念仏を、わざとだがいっしょにやり、昔の名残りととどめている。二十六夜さんは、十五夜さんのあとで、念仏講の女衆がムシロ・お茶・お茶菓子を持って浜(川尻)へ夜おそく行き舟のように細くなった月に阿弥陀さんが上げられるのを念仏を申しながら拝むのだという。

(国府新宿)

国府新宿の上町では、大正10年にお嫁にきた原コウさん(明治32年生)によると、二十六夜さんは9月で、町内のお念仏をやる年寄りの女衆が7・8人、夜、浜に行ってお念仏を申した。念仏をやる場所は、海岸の松林の中に平らな所があり、今はないがそこに石の祠が東を向いてあり、ここにムシロを敷いてやった。細い月を見るため寝ないで番をしているが、やたら見れない。たいがい晴れていなかったという。関東大震災以後はやらなかった。

国府新宿の原町では、杉山カツさん(明治40年生)によると、本人は一度もやらなかったが、20年位前まで二十六夜さんの念仏があったという。講はなかったが、念仏する人に呼びかけて9月の二十六夜さんの日に、10人位の女衆がゴザ・線香・お茶菓子を持って浜へ行った。9時過ぎてから行き、夜更けに月の上るのを拝むのだが、待ちきれないで町内のジオウ堂で待っていたという。杉山さんの母が夜中に帰ってきて「阿弥陀さんが舟に乗って上ってこられた」「まあ、今夜はありがた

かったよう。いい阿弥陀さんを見ることができた」「今夜見れてありがたかったよう」などと言っていたという。

最後に今回の調査に協力をいただいた老人会長さん、個人的に聞いた方々の名前を記した。(順不同・敬称略)

高橋 光 造 (明治39年生・高麗)	柴 山 シ ヅ (明治41年生・大磯)
榎 本 キ ク (大正1年生・大磯)	日 守 吉 平 (明治35年生・大磯)
飯 田 ミ エ (明治36年生・大磯)	渡 辺 ア サ (明治37年生・東小磯)
江 藤 利 (大正6年生・西小磯)	鈴 木 ハ ナ (明治35年生・西小磯)
仲 手 川 定 三 (明治36年生・西小磯)	竹 内 千 吉 (明治41年生・生沢)
一 石 栄 蔵 (明治36年生・生沢)	杉 崎 富 士 (明治36年生・寺坂)
守 屋 常 太 郎 (明治40年生・黒岩)	二 宮 道 明 (明治28年生・虫窪)
露 木 マ サ (明治37年生・国府本郷)	原 田 ユ ミ (明治34年生・国府本郷)
杉 山 カ ツ (明治40年生・国府新宿)	原 コ ウ (明治32年生・国府新宿)
近 藤 ダ イ (明治41年生・月京)	平 田 ト メ 子 (大正8年生・大磯)
熊 沢 タ ケ (大正5年生・西久保)	

- 1) 大磯町立国府中学校教頭
- 2) 昭和58年6月～12月に実施した月待供養塔・講の聞きとり調査による。

郷土資料館着工される！

6月15日(月)、近隣住民および工事関係者が多数出席し、起工式がとりおこなわれました。

当日は、あいにくの雨でしたが、席上、高島町長より「雨降って地固まる」との機知に富んだ挨拶があり、来年10月オープンを目指しいよいよ郷土資料館の工事が始まりました。

なお工事中は、安全について万全を期しておりますが、皆様方のご協力よろしくをお願いします。